

令和7年度 全国学力・学習状況調査における高萩市の結果について

高萩市教育委員会

1 はじめに

全国学力・学習状況調査は、平成19年から小学校第6学年、中学校第3学年を対象として、毎年実施されています。令和7年度は、教科に関する調査は、小学校調査は国語、算数及び理科、中学校調査は、国語、数学及び理科を実施しました。中学校理科に関しては、CBT方式で実施されました。また、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査を実施しました。調査の目的は、以下の3点です。

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ③ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

これまでの調査を通して、児童生徒の学力の定着・向上には、学校での教科指導の充実はもとより、子どもたちの生活習慣や学校環境も大きく関わっていることが明確になりました。

高萩市教育委員会では、学校、家庭、地域が互いに連携し、学習指導、家庭教育、地域とともにある学校づくりを通して、健やかな萩っ子の育成の充実を図っていきたいと考えます。

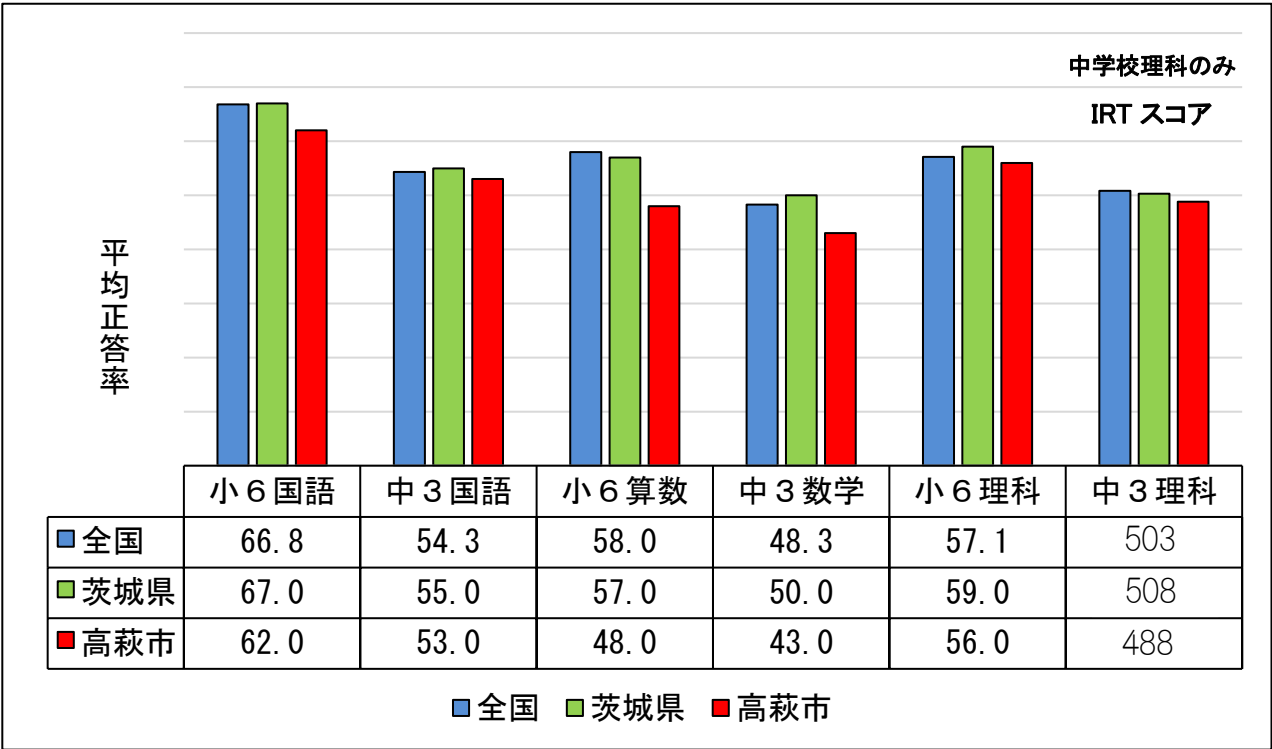
このことから、以下のねらいで全国学力・学習状況調査結果を報告するものであります。

健やかな萩っ子の育成について、学校と家庭、地域が一体となった教育改善につなげるため保護者及び地域に向けて、高萩市の全国学力・学習状況調査結果を報告する。

*CBT方式とは

CBT（Computer-Based Testing）方式とは、コンピュータを利用して実施される試験方式のこと。

2 高萩市の全国学力・学習状況調査の結果



*IRTスコアとは

IRT（各問題と受験者の能力を統計的に評価する手法）に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定してスコアにする。「500」を基準にした得点で表す。

3 高萩市の成果と課題及び今後の改善策

各教科で見られた課題とその改善策を踏まえ、訪問指導の際に、指導改善のポイントについて助言を行っていきます。

【国語】

知識・技能を問う問題では、全国平均正当率と比較して、小学校は－4.9%、中学校は－1.2%であった。思考力・判断力・表現力を問う問題では、小学校は－4.8%、中学校は－1.3%であった。

特に小学校においては、知識・技能及び思考力・判断力・表現力ともに改善を図る必要がある。

小学校 第6学年	成果	①目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題 (2三) 【正当率 60.8% (全国 61.3%)】 ②目的に応じて、文章や図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる問題 (3三 (2)) 【正当率 54.1% (全国 56.3%)】
	課題	①自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題 (1三 (1)) 【正当率 60.8% (全国 71.8%)】 ②図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題 (2二) 【正当率 75.7% (全国 81.8%)】
	改善策	①物語や会話を聞いたり読んだりする活動では、話の意味や登場人物の行動の意図等について問いかけながら進めることで、内容の背景や状況を理解できるようにする。また、聞き取り問題では、話の主旨を的確に捉えるための練習として、短い会話や文章を聞いて、要点や必要な情報をつかむ活動を取り入れる。さらに、複雑な話や文章を聞いたり読んだりして要約する活動を通して、要点を捉える力を身に付けるとともに、グループ内で要約した内容について意見交換をすることで多様な解釈に触れ、理解力を高める。 ②図表の読み解き力、論理的思考、そして表現力を総合的に強化する必要がある。まずは、目的や相手意識をもつなど条件に沿って書く活動や、図表や資料を活用して自分の考えをより論理的に伝える活動などを通して、目的に応じた表現力の向上を図る。例えば、図表のデータをただ羅列するのではなく、「このグラフからは…」や「表を見てわかることは…」等の言葉を使うなど、図表を効果的に組み込みながら文章を書く練習を取り入れる。さらに、グループ内で互いの文章を読み合いながら意見交換をしたり、要点を整理したりするなど、図表が示す内容を正確に読み取る活動も並行して行う。
中学校 第3学年	成果	①資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題 (2一) 【正当率 42.9% (全国 38.1%)】 ②事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる問題 (3三) 【正当率 68.0% (全国 61.0%)】
	課題	①文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる問題 (1一) 【正当率 25.7% (全国 35.2%)】 ②読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題 (4一) 【正当率 40.6% (全国 57.3%)】
	改善策	①漢字の指導では、単に漢字の意味や使い方の定着を図るだけでなく、「どの漢字がどの場面で使われるか」を文脈に沿って用いられるようにする。さらに、漢字を単体ではなく、語彙として指導する。例えば、単語の意味と使い方に加え、類義語・対義語も合わせて指導したり、生徒が文脈に応じた漢字を選択しながら自分の考えを文章で表現する活動を多く取り入れたりすることで、文脈に合わせた適切な漢字を選べるようにする。その際に、教師からのフィードバックを丁寧に行うようにする。 ②登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握するために、あとの展開を予測しながら作品を読み、文章の構成や展開の効果について考える学習活動等を行う。その際、構成や展開に着目して、「なぜそのようなになっているか」、「それがどのような効果につながるか」について考え、自分なりの意味付けをするように指導する。また、文章を書く活動では書く前に、文章の構成や内容をしっかりと構想したり、文章の目的に応じた適切な表現について考えたりしてから記述する指導も必要である。併せてペアやグループで読み合い、「表現が適切か」を話し合う活動等を通して、文章を改善する視点も広げる。

【算数・数学】

知識・技能を問う問題では、全国平均正当率と比較して、小学校は－9.6%、中学校は－1.8%であった。思考力・判断力・表現力を問う問題では、小学校は－10.4%、中学校は－9.3%であった。小中学校ともに、知識・技能の定着に課題があり、特に小学校においては、得た知識・技能を活用することで思考力・判断力・表現力を育む指導が必要である。

小学校 第6学年	成果	①目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題（1（2）） 【正当率 26.5%（全国 31.0%）】 ②簡単な二次元の表から条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる問題（1（3）） 【正当率 67.4%（全国 71.6%）】
	課題	①数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる問題（3（3）） 【正当率 19.3%（全国 35.0%）】 ②伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題（4（2）） 【正当率 33.1%（全国 48.7%）】
	改善策	①単位分数（例えば、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$ 、 $\frac{1}{4}$ など）を使って分数を視覚的に捉える練習を取り入れる。例えば、1を2等分した数直線を描き、次に $\frac{1}{2}$ を数直線上にマークして示した後に、1を3等分した場合は、 $\frac{1}{3}$ を数直線上にどのように配置するかを練習することで分母が増えるごとに分数の間隔がどのように変化するかを理解できるようにする。さらには「 $\frac{1}{2}$ は $\frac{1}{4}$ の何倍か」といった問題を数直線上で可視化し、 $\frac{1}{2}$ を $\frac{1}{4}$ でどのように分けるかを考える場面をつくることで、分数を「何分のいくつ」として捉える力を育む。 ②「数量がどのように変わるのか」を捉えるために、問題を分解して、それぞれの数量がどのように増減するのかを明確にする活動を行う。まずは「一人あたりの食材の量を増やすと全体の食材量はどう変わるか」、「車の速度が速くなると所要時間はどう変わるか」など、具体的な事例を生活の中から取り上げ、数量間の関係を具体的に理解できるようにする。次に「どの数量を求めたいのか」、「その数量は他の数量との関係でどのように変わるのか」を考えて式を立てられるようにする。また、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるためには、グラフや図で表現することで視覚的な理解を促す。
中学校 第3学年	成果	①素数の意味を理解しているかどうかをみる問題（1） 【正当率 52.6%（全国 31.8%）】 ②不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題（7（2）） 【正当率 59.4%（全国 55.9%）】
	課題	①目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる問題（6（3）） 【正当率 29.7%（全国 45.2%）】 ②ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題（9（3）） 【正当率 17.7%（全国 33.2%）】
	改善策	①式を変形する際に、変形する理由を明確に意識できるようにする。例えば、方程式では、両辺に同じ数を足しても成り立つ理由や、乗法逆数を使って式を簡単にする理由を説明する活動を取り入れる。また、具体的な事例を取り上げることで、変形の目的が「解を求めるため」であることを理解できるようにする。また、式の変形の練習を行う際は、加法・減法・乗法・除法の法則を使って式を変形する基礎的な演習を繰り返し行う。特に、式の展開や因数分解、分数式の処理などの基本操作を重点的に扱う。その際、理解が難しい生徒には、式を変形する手順に分けて進められるようにするなどの手立てを講じる。 ②まずは、証明の基本的な流れと構造を理解できるように、「前提→仮定→証明すべき事柄→結論」という流れのフォーマットを活用して、どの部分に何をどのように書くべきかを段階的に示す。また、証明問題は難易度が高い傾向にあるため、簡単な問題から始め、基本的な流れをつかめるようにする。また、証明を単なる「式の操作」や「手順」にとどめることなく「なぜその操作を行うのか」等について話し合ったり、説明したりするアウトプットの場面を設け、さらには生活に結び付けながら証明がどのように役立つのかを取り上げることで、証明の本質を理解できるようにする。

【理科】

小学校における全国平均正当率との差は、知識・技能を問う問題では+1.1%、思考力・判断力・表現力を問う問題では-2.6%であった。また、中学校においては、全国 IRT スコア 503 に対して、本市 IRT スコアは 486 であった。小中学校ともに、全国平均と僅差であった。

小学校 第6学年	成果	①乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題 (2 (4)) 【正当率 68.5% (全国 55.1%)】 ②へちまの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題 (3 (1)) 【正当率 83.4% (全国 70.7%)】
	課題	①赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる問題 (1 (3)) 【正当率 68.5% (全国 77.8%)】 ②「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる問題 (4 (3) ク) 【正当率 51.4% (全国 65.6%)】
	改善策	①実験結果をもとに予測を立てる力をつけるために、実験で得られたデータや観察結果を表やグラフにまとめることで、視覚的に分かりやすく整理したり、実験ごとに「どの条件がどう影響を与えたか」を整理し、結果を要約したりする活動を行う。また、予測を立てる際に過去の結果をうまく活用できるように、実験後の振り返りの充実を図る。さらには、結果の原因を考えることにとどまらず、予測が間違っていた場合の理由も考えることで、結果と予測の違いから新たな学びを得られるようにする。 ②「熱膨張」の概念の定着を図るには、まずは、水を温めて体積の変化を測る実験を行い、温度と体積の関係を視覚的に理解できるようにする。また、膨張した水の体積を目で確認できるようにすることでさらに理解を深める。水の膨張に関する理解の補足として、「車のタイヤが夏に膨張する」など、身近な例を取り上げる。また、表現力の向上を図るために、予測を言葉で説明する活動も取り入れる。難しい児童には、例えば「もし～が～の場合、～が起こる」などのテンプレートを示すことで、どの児童も意欲的に取り組めるようにする。
中学校 第3学年	成果	①身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる問題 (1 (2)) 【正当率 54.6% (全国 46.2%)】 ②科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる問題 (1 (6)) 【正当率 86.2% (全国 79.4%)】
	課題	①水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題 (1 (4)) 【正当率 15.5% (全国 29.7%)】 ②小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる問題 (7 (1)) 【正当率 20.0% (全国 34.8%)】
	改善策	①生命を維持する呼吸の知識をいろいろな生物に活用できるようにする。観察した生物の共通点と、生命を維持する呼吸の知識とを関連付けて、生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けることが大切である。例えば、「呼吸を行う」、「光合成を行う」などの生物の共通点や相違点を挙げ、生命を維持する働きに関する知識を基に、それらの特徴からいろいろな生物について考察する学習場面を設定する。直接観察することが難しい生物については、例えば、博物館等で公開している動画等を1人1台端末で視聴する。 ②学習している自然の事物・現象の特徴を、日常生活や他の自然の事物・現象に適用できるようにする。生物が生命活動を維持するために、必要な物質を体内に取り入れる際の特徴について、既習事項や日常経験などに関連付けて考えられるようにする。指導に当たっては、必要な物質を体内に取り入れる際の特徴として、表面積が大きくなっていることに気付かせ、日常生活や他の自然の事物・現象に適用させる学習場面を設定する。その際、あらかじめ個人で考え、他者との意見交換をし、知識及び技能をそれぞれ関連付けて、多面的、総合的に探究できるようにする。

4 児童生徒質問から見える傾向 ※令和7年度「高萩市の学校教育」との関連を抜粋

		小学校6学年				中学校3学年			
	質問事項 ※「あてはまる」+「どちらかと言えばあてはまる」の割合(%)	本市 平均	差 (全国)	県 平均	全国 平均	本市 平均	差 (全国)	県 平均	全国 平均
共育	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	82.1	4.0	79.5	78.1	78.5	-0.7	79.0	79.2
	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	86.9	5.2	82.7	81.7	77.4	-0.1	78.7	77.5
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	79.9	0.5	80.2	79.4	70.1	-3.3	74.6	73.4
	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。	83.1	0.6	83.4	82.5	68.4	-6.4	75.3	74.8
	将来の夢や目標を持っていますか。	89.1	6.0	85.2	83.1	63.8	-3.7	69.3	67.5
響育	自分には、よいところがあると思いますか。	88.6	1.7	86.5	86.9	85.3	-0.9	86.1	86.2
	人が困っているとき、進んで助けていますか。	95.1	1.4	94.2	93.7	93.8	2.9	91.1	90.9
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	96.8	-0.4	97.4	97.2	96.6	0.7	96.3	95.9
	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	72.3	1.7	70.1	70.6	62.1	-11.1	71.9	73.2
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	97.3	0.9	96.0	96.4	96.6	0.0	97.0	96.6
強育	朝食を毎日食べていますか。	92.4	-1.3	93.7	93.7	91.5	0.3	91.8	91.2
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	87.0	5.1	83.0	81.9	87.0	6.0	81.2	81.0
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	93.0	2.0	91.9	91.0	92.1	-0.5	92.8	92.6
	これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか。	83.7	3.1	81.7	80.6	79.7	4.0	76.5	75.7
	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか。	85.9	5.9	81.9	80.0				
郷育	学校に行くのは楽しいですか。	93.0	6.5	87.8	86.5	80.2	-5.9	86.3	86.1
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	79.9	-1.4	82.0	81.3	69.5	-5.8	75.7	75.3
	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあります。(習い事は除く)	44.0	4.6	40.0	39.4	29.9	0.4	28.3	29.5
その他	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。 ※上段：2時間以上 下段：1時間以上	25.0 33.2	0.1 4.1	22.7 35.6	24.9 29.1	19.2 40.7	-11.6 8.1	29.2 34.4	30.8 32.6
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。 ※上段：3時間以上 下段：2時間以上	8.7 13.6	-3.1 3.9	11.4 12.4	11.8 9.7	10.7 19.8	-3.1 1.1	15.5 20.7	13.8 18.7

○「**共育**」に関して

小学校においては、協働的な学びや探究的な学びを体得しながら学習を進めている児童が多いことがうかがえる。一方で、中学校においては、友だちとの意見交換等を通して、学習への粘り強さや調整力を育成することが不十分であることがわかる。結果的に、夢や目標を持ち、その実現に向けて学習に取り組むことが難しくなる傾向にある。今後は、キャリア教育や総合的な学習の時間の充実を図ることで、児童生徒による主体的・対話的で深い学びを実現できると考える。

○「**響育**」に関して

本市で実践している一人一人に寄り添う教育の充実や生徒支援の深化が、概ね児童生徒の自己肯定感や自己有用感の高揚に結びついていると考えられる。一方で、中学校における相談体制の確立や生徒との信頼関係の構築に課題が見られた。今後は、生徒への「SOSの出し方教育」の見直しや相談しやすい環境づくりに努めなければならない。また、自己肯定感や自己有用感のさらなる高揚を目指して、実体験を通して生活や学習への意欲や自信を高められるような特別活動や福祉教育の充実も図っていきたい。

○「**強育**」に関して

本市では、児童生徒の基本的な生活習慣（身だしなみ、掃除、あいさつ、時間を守る）を身に付ける支援を教育の基盤としている。また、「早寝・早起き・朝ごはん」の励行に努めていることから、朝食摂取率や起床及び就寝時刻への意識は、昨年度より上昇傾向にあると考える。また、体力アップ推進の一環として、小学校における外遊びの奨励や小中学校における体力アッププランの共通実践を通して、児童生徒の主体的な運動の習慣化を図っており、それらが児童生徒の屋外活動に対する肯定的な姿勢を育んでいると考えられる。

○「**郷育**」に関して

本市では、コミュニティ・スクールの活性化を通して、「地域とともにある学校」の実践を図っている。しかし、学校や地域が大好きで大切に感じている児童生徒の育成までは至っていないことがうかがえる。一方で、地域人材を活用した教育活動や中学校における部活動地域展開等により、地域の大人との関わりは比較的多いことがわかる。今後は、総合的な学習の時間における「高菰学のすすめ」の指導方法の見直しや、ラーケーション活用による体験活動の充実を通して、さらなる郷土愛の育成を目指したい。

○「**その他**」に関して

特に中学校において、学校以外での学習時間が全国や茨城県の平均に比べて短いこと、また、学習習慣の確立に課題があることから、学習に対して目的意識をもつことができる支援が必要である。例えば、魅力ある授業実践を通して自ら学びたい意欲の高揚を図ることや、キャリア教育や道德教育を通して目標をもって生活する態度を育成することなどが考えられる。また、一人一台端末を活用した家庭学習のさらなる充実も図っていきたい。

5 児童生徒の生活習慣や心理的側面と学力との関連（参考資料）

【小学校6学年】

朝食を毎日食べていますか

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		
				国語 (14問)	算数 (16問)	理科 (17問)
1	している	149	83.2	64.2	50.6	57.8
2	どちらかといえば、している	16	8.9	54.9	37.9	46.3
3	あまりしていない	8	4.5	49.1	37.5	45.6
4	全くしていない	6	3.4	45.2	28.1	40.2

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		
				国語 (14問)	算数 (16問)	理科 (17問)
1	している	107	59.8	64.0	49.3	57.0
2	どちらかといえば、している	59	33.0	62.7	50.7	56.6
3	あまりしていない	9	5.0	46.8	24.3	41.2
4	全くしていない	3	1.7	28.6	22.9	31.4

自分には、よいところがあると思いますか

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		
				国語 (14問)	算数 (16問)	理科 (17問)
1	当てはまる	86	48.0	60.9	49.6	56.8
2	どちらかといえば、当てはまる	73	40.8	64.1	47.4	54.6
3	どちらかといえば、当てはまらない	13	7.3	67.0	49.0	57.9
4	当てはまらない	7	3.9	45.9	34.8	47.9

将来の夢や目標を持っていますか

選択肢		児童数	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		
				国語 (14問)	算数 (16問)	理科 (17問)
1	当てはまる	122	68.2	63.7	50.1	57.1
2	どちらかといえば、当てはまる	38	21.2	59.8	42.3	49.4
3	どちらかといえば、当てはまらない	11	6.1	55.2	47.7	56.7
4	当てはまらない	7	3.9	57.1	44.6	62.2

【中学校3学年】

朝食を毎日食べていますか

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		平均IRTスコア
				国語 (14問)	数学 (15問)	理科
1	している	136	78.2	54.3	45.4	492
2	どちらかといえば、している	23	13.2	49.7	43.8	485
3	あまりしていない	11	6.3	50.7	27.3	418
4	全くしていない	4	2.3	37.5	20.0	466

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		平均IRTスコア
				国語 (14問)	数学 (15問)	理科
1	している	83	47.7	56.9	46.5	500
2	どちらかといえば、している	77	44.3	49.9	41.2	475
3	あまりしていない	14	8.0	47.4	38.6	461
4	全くしていない	0	0.0			

自分には、よいところがあると思いますか

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		平均IRTスコア
				国語 (14問)	数学 (15問)	理科
1	当てはまる	56	32.2	55.5	51.9	522
2	どちらかといえば、当てはまる	92	52.9	51.7	41.9	471
3	どちらかといえば、当てはまらない	16	9.2	55.8	33.3	468
4	当てはまらない	10	5.7	47.9	28.0	455

将来の夢や目標を持っていますか

選択肢		生徒数	生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		平均IRTスコア
				国語 (14問)	数学 (15問)	理科
1	当てはまる	48	27.6	54.6	41.3	474
2	どちらかといえば、当てはまる	62	35.6	53.6	44.3	506
3	どちらかといえば、当てはまらない	44	25.3	51.1	43.9	476
4	当てはまらない	19	10.9	52.4	46.3	474

以上の結果を踏まえながら、今後も引き続き、多面的・多角的な教育活動の推進を図っていきたい。